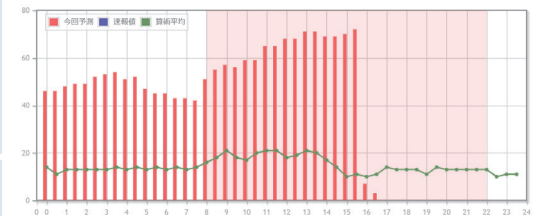
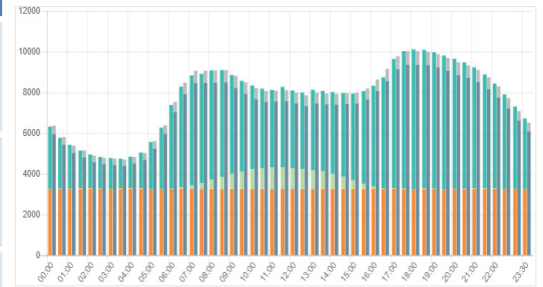


エネパートナー ～ 電力小売基幹業務のAIによる自動化技術 ～

企業名	株式会社エネルギー・オプティマイザー		
所在地	東京都港区	資本金	20百万円
設立	2008年3月	従業員数	20名
コア技術	①クラウドサービスの構築技術 ②アルゴリズムによる業務の省人化		

開発製品／技術の概要	特徴・ポイント
・本件技術は、AIを使った電力需給管理システムになる。 ・外的環境要件(天候や、温度など)と、電力の利用状況に関するデータを蓄積し、AIにより相関関係を分析。分析データと、天気予報等を組み合わせて翌日の電力需要を予測する事ができる。なお、需要予測に基づき、電力調達先の最適な選定が可能となる。 ・電力小売事業を行う場合に必要となる、電力需給計画の提出等の基幹業務を自動化できる。 ・システムはSaaSの形態で提供する。	①専門人員をつけなくても新電力の運用が可能に 新電力事業者における電力需給計画の策定には、技術者や専門要員が必要で、また一般送配電事業者への申込みもFAXやメールなどで行われている。ここに同システムを導入し、基幹業務を自動化する事で、専門人員をつけなくても新電力の運用が可能となり、運用コストを低減できる。 ②全体コストの低減が可能 精度が高い電力需要の予測に基づき、最もコストが安くなる電力の調達先を選定する。これにより、全体コストの低減につなげる事ができる。 ③低価格でのシステム提供が可能 ・イニシャルコストが、一律160万円。 ・ランニングコストは、契約kW数による従量制で、1kWあたり70～80円。ミニマムで月額40万円～。
主な実績	
2018年8月時点で、12社にシステムを導入している。	

マッチング先への要望など	
マッチング先として希望する業種／業界	連携することで想定される利点
①自治体	・スマートシティ構想の一環として、電力小売り事業に参入する場合、本システムを活用する事で、 省人化や業務効率化 を図る事が可能となる。
②家庭用蓄電池メーカー	・同社は、SII(一般社団法人 環境共創イニシアチブ)で、VPP(バーチャルパワープラント)の実証実験に参加している。(対象は家庭用蓄電池) ・蓄電池に本システムを組み合わせる事で、蓄電池の最適制御が可能となるので、 蓄電池の高付加価値化 を図る事ができる。
③店舗や事務所が多い企業	・同システムを導入し、電力使用を束ねることで、 電力調達コストを削減 できる。



NEDO事業の概要

現在、新電力事業者における電力需給計画の策定業務や、一般送配電事業者への申込み業務には、技術者や専門要員が必要となっており、新電力事業への参入はハードルが高い。そこで、電力取引を省人化するとともに、専門的なノウハウなしでも新電力事業に参入できるようにすることを目的として、「再生可能エネルギー発電対応の人工知能によるリアルタイム入札自動化技術の開発」にNEDO事業として取り組んだ。NEDO事業を通じて、B版は完成し、2018年6月1日に正式版をリリースしている。

NEDOベンチャービジネスマッチング会資料